佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 253 集

家地頭古墳群

家地頭２号墳

長野県佐久市常田家地頭２号墳発掘調査報告書

2018.03

佐久市教育委員会

例　言

1　本書は長野県佐久市に所在する家地頭古墳群家地頭２号墳の発掘調査報告書である。
2　調査は小池孝司が行うアパート新築造成工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
3　遺跡名及び所在地　　家地頭古墳群家地頭２号墳（ＹＧ２）佐久市常田３３４－２、塚原１０２１－２他
4　調査期間及び面積　　発掘調査：平成 29 年７月３日～７月 25 日
　　整　　理：平成 29 年 10 月２日～平成 29 年 12 月 27 日
　　調査面積：150㎡
5　本書に掲載した地図は佐久市役所発行の地形図（1：50,000）である。
6　遺構測量はＴＳを用い３次元データを取得した。取得したデータは株式会社ＣＵＢＩＣの「遺構君」により図化した。図面トレースは、「遺構君」で行い、Adobe Illustrator で調製した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し Adobe Photoshop で補正等を行った。編集は Adobe InDesign で行った。
7　本書の作成・編集は小林が行った。
8　本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1　挿図の縮尺は遺構 1/100 を基本とする。
2　海抜標高は、水糸標高をスケール上に「標高」として記してある。また、土層の色調は 1999 年版「新版標準土色帖に基づいた。
3　調査区グリットは公共座標の区割りにしたがい、間隔は４ｍ×４ｍで設定した。

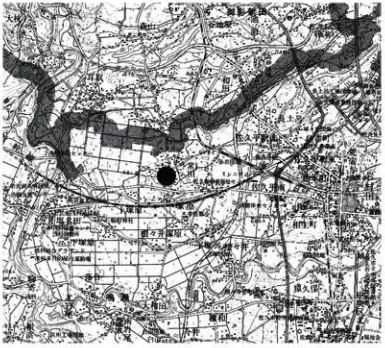
目　次

例言・凡例
目次
Ⅰ　発掘調査の経緯……1
　1　経過と立地……1
　2　調査体制……2
Ⅱ　古墳の調査……2
Ⅲ　まとめ……4
写真図版……5
抄録・奥付

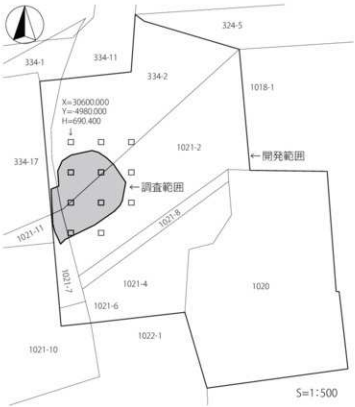
Ⅰ　発掘調査の経緯

1　経過と立地

家地頭古墳群は、佐久市の常田・塚原地籍に所在し、西近津遺跡群、常田居屋敷遺跡群と重複する。２号墳は古墳群の南端に位置する。遺跡は、濁川の流域に属し、塚原泥流層が風化作用により浸食され、最も堅い部分だけが残った所謂「残丘」が水田地帯に数多く点在する独特な景観地域に



第１図　家地頭２号墳位置図（1：50,000）



第２図　調査範囲図（1：500）

存在する。これらの残丘は古墳とみまちがう形状のものも多く、「塚原」という地名はこれに由来する。また、これらの残丘を利用した古墳も多く、この地域及び周辺部には多くの古墳群が存在している。

遺跡の周辺では、本古墳の 130 m北北西方向に位置する１号墳の調査が昭和 50 年に実施されている。残丘の頂部に構築された古墳であり、石室の構築材は塚原泥流の多孔質集塊岩を多用していた。墳輪を伴う古墳であり、６世紀後半の築造と思われる。

今回、２号墳を内包する地籍で小池孝司氏によるアパート新築造成工事が計画された。２号墳の残存状態は極めて悪いため試掘調査を実施し古墳であるか否かを確認した結果、古墳であることが確認された。保護協議を行ったが古墳の保存は不可能なため、記録保存を目的とした発掘調査を行うこととなった。なお、開発範囲には２号墳以外の遺構は確認されなかった。

２　調査体制

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	棚澤晴樹
事務局	社会教育部	部長	荻原幸一
	文化振興課	課長	小林義夫
		企画幹	小林登志朗
	文化財調査係	係長	大塚広樹（９月まで）塩川宏幸（10 月から）
		係	小林眞寿　冨沢一明　上原　学 久保浩一郎　岩下　琴
		臨時職員	森泉かよ子
		調査担当者	小林眞寿
		調査員	岩松茂年　小林喜久子　羽毛田利明 宮川真紀子　山口ひとみ　山田叔正 油井満芳

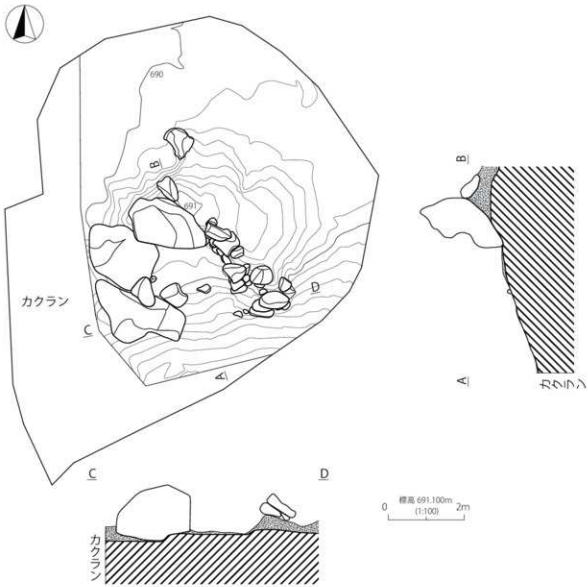
昭和 47 年航空写真

Ⅱ　古墳の調査

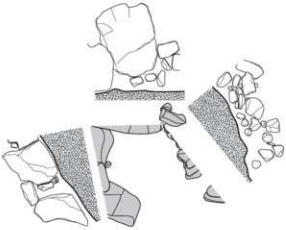
１　古墳と石室

（１）墳丘（第２・４図）

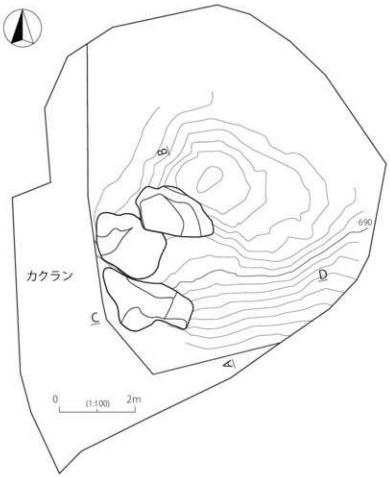
古墳は、浅間山塚原泥流の残丘を利用し造られている。露出した多孔質集塊岩を石室に利用するために頂部からわずかに西よりに石室奥壁が配置され、東南方向に開口する。長年におよぶ耕作及び、西隣りの宅地造成時の擁壁工事による破壊を受け原型は留めていないが円墳であった



第２図　家地頭２号墳平面図（1：100）



第３図　家地頭２号墳石室展開図（1：100）



第４図　家地頭２号墳掘方平面図（1：100）

（３）遺物

以上のような状態であるため、出土遺物は皆無であった。

Ⅲ　まとめ

家地頭２号墳は、極めて残存状態が悪い古墳である。執拗な破壊を受け続けた結果、遺物は完全に消失し、その年代を知るすべもない状況であった。

家地頭古墳群で調査が実施されている家地頭第１号古墳とは、残丘を利用した立地や、石材等に類似点が多いが、これは古墳群が存在する地域の環境に依存する要因であり、おそらく古墳群内の他の古墳も同様であろうと思われる。

原因者の理解により、記録保存という必要最低限の措置がとれたことに深く感謝申し上げる次第である。

ものと推測される。地山である塚原泥流層上には古墳構築土と思われる部分も残存するが、耕作によるカクランが著しく判断が難しい。周溝、外護列石、裏込石は確認されなかった。推定される墳丘規模は径 10 m程度と思われるが、墳丘高については皆目見当がつかない。

（２）石室（第３図）

石室は横穴式で、玄門から羨道部分は残存しない。奥壁と西側壁が破壊により歪んだ状態にあり、位置的にも原位置を保持していない。石質は多孔質集塊岩である。調査時点では３個の石に分離していたが、本来は１個の岩であったものと思われる。この岩は残丘本体の露出部分であり、これを石室に流用していたものと思われる。この岩には、取り除こうとして付いた数多くの傷が残されていることから、当初は全く異なる形状であった可能性も高い。東側壁は２～３段の石積みが残っているが、状態は悪い。石質は多孔質集塊岩が大半を占めるが、安山岩も２個使用されている。床面は本来よりもかなり深く掘り下げられており、礫床面は残存していない。入口に向かい傾斜しており、床面状には後世に炭を焼いた痕跡や、現代の遺物が埋まっていた。

平成６年航空写真

家地頭２号墳完掘（東から）

家地頭２号墳東側壁

家地頭２号墳西側壁

家地頭２号墳掘方（北東から）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	やちがしらこふんぐん　やちがしらまごうふん
書 名	家地頭古墳群　家地頭２号墳
シ リ ー ズ 名	佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 253 集
編 集 者 名	小林眞寿
編 集 機 関	佐久市教育委員会
発 行 機 関	佐久市教育委員会
発 行 年 月 日	20180331
郵 便 番 号	385-0051
電 話 番 号	0267-63-5321
住 所	長野県佐久市中込２９１３
ふ り が な	やちがしらこふんぐん　やちがしらまごうふん
遺 跡 名	家地頭古墳群　家地頭２号墳
ふ り が な	ながのけんさくしときだ 334-2、つかばら 1021-2 ほか
遺 跡 所 在 地	長野県佐久市常田 334-2、塚原 1021-2 他
遺 跡 番 号	33-2
北 緯	36.16.32.8739
東 経	138.26.41.0011
調 査 期 間	20170703 － 20170725

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 253 集
家地頭古墳群　家地頭２号墳
平成 30（2018）年 3 月

編集・発行　佐久市教育委員会
〒 385-8501　長野県佐久市中込 3056
社会教育部　文化振興課文化財事務所
〒 385-0051　長野県佐久市中込 2913
℡ 0267-63-5321

印 刷 所　キクハラインク有限会社